

ポスターセッション時の教員用ルーブリック評価表

評価の段階	1	2	3	4
評価の観点	育成の余地が非常に大きい	育成の余地が大きい	育成の余地が残っている	よく育成されている
課題設定	個人的な興味や関心からの思いつきにすぎず、その解決に意義がある課題とは言いにくい。フィクションと現実のちがいがなど、自明のことを扱っている。	学習や生活などを通じて生じた疑問点等の中から課題を取り上げてはいるが、深く学べば解決できることを課題にしている。	学習や日常生活などを通じて生じた疑問点等の中から解決すべき課題を取り上げているが、その課題解決がもつ意義を明確に言及できていない。	学習や日常生活などを通じて生じた疑問点等の中から解決すべき課題を取り上げ、その課題解決に学問的、社会的意義を見いだしていることが表明されている。
文献調査の客観性	自ら設定した課題について先行研究や文献の調査を行っていない。	情報の出典が不明確である、または、出典がネット情報のみで構成され、客観性が乏しい。文献引用のマナーが不十分。	設定課題について背景および先行研究について、ある程度、引用のマナーに則り表現しているが、客観性・関連性の乏しい内容を含み、信頼性を損なっている。	文献引用のマナーを守りながら、自分の設定課題に関する背景や知見、先行研究について整理し、研究全体を客観的に支持している。
文献調査と課題の理解	どこかで見聞きした話題のレベルでしか課題を認識していないため、課題が解決済みかどうかもわかっていない。前提となる知識が非常に乏しい。	課題の背景や前提となる知識について、理解が不十分である。	課題の背景や前提となる知識についておおよそ理解しているが、曖昧さが残る。既存の知見に対して疑念がない。	自ら設定した課題の背景や前提の理解がほぼできている。既存の知見に対しても不十分さを感じたり、疑ったりする姿勢もある。
検証方法	自ら調査や検証の方法を考えず、本やネット情報だけを並べ立てている。	自ら調査や検証をしているが、調査や検証が単一である(一面的である)。方法も検証に不適切であり、信頼性と客観性が低い。	調査や検証が単一である(一面的である)が、検証方法が適切である。ある程度の信頼性と客観性があるとみられる。	適切な方法で、複数の調査や検証を行っており、多面的に検討しようとしている。信頼性と客観性が高いとみられる。
結果を表現する図やグラフ	文章中心でポスターが構成され、参観者の理解を助けるような図や写真、グラフ等が1つ以下しかない。☆探究内容によっては、図やグラフがない場合も考えられる。	図や写真、グラフ等が示されているが、小さくて見えない、グラフ軸にタイトルや単位がない、理解に不必要な図やグラフが多い。	適切な大きさで内容で、必要な図やグラフが提示されている。適切に処理されていない個々の結果がそのまま表やグラフの形で提示され比較検討がしにくい。	図や表・グラフを適切に配置し、参観者の理解を促している。個々の結果を1つの表やグラフ等にまとめられ、結果を比較しやすくするなどの工夫が加えられている。
データ等の論理的解釈	意図的に自己の主張を支持するような、こじつけの解釈を行っている。もしくは自分の意図に沿ったデータや結果のみを解釈に用いている。	データや結果から一面的もしくは主観的で安易な解釈が行われていて、十分に論理的な解釈とは言えない。	一面的で主観に基づいた非論理的解釈が部分的に残るものの、問題解決に結びつくような論理的解釈が概ねできている。	おおむね妥当と考えられるデータや結果をほぼ論理的に課題解決に関連付け、多面的で客観的な解釈ができる。
根拠に裏付けされた結論	結論が明確に示されていない。または、結論が根拠にまったく裏付けられていない。課題解決の目的と結論が対応していない。	結論は課題の目的に対応するが、根拠のないものが多く見られる。課題や根拠と直接関係のない主張等がかなり盛り込まれている。	根拠に基づく結論のみが示されている。しかし、その根拠では言い切れない結論が一部見られる。	適切な根拠に裏付けられたことのみが、設定課題との関連で結論として述べられ、説得力もある。
他者の評価をうける意欲	消極的な発表態度である。質疑応答にも応じない。	普通に発表するが、準備不足で質疑に応えられないところがある。	しっかりと発表し、質疑に応じることができる。討論まではできない。	しっかりと発表し、積極的に討議する姿勢がある。